歳時記

ふるさと探訪　紅葉

紅葉見や行き交う人と目で会釈　竹石　末子

紅葉は誰もが知る秋の季語。夕紅葉、紅葉川、紅葉谷と季語は豊富。

ここでは紅葉の色や美しさを詠いたいところを抑えて、下五の「目で会釈」の無言の会話に委ねました。

「美しいね」二人の会話が聞こえてきます。

読者俳句

今月の推薦句

梵鐘のほかは聞こえず秋の暮　泉　渓

梵鐘（ぼんしょう）は、寺院などで使用される鐘（つりがね）のこと。中七で暮れゆく秋の佇まいを想像していまいます。無駄のない句です。

舗装路のヒールの音や木の葉舞ふ　林　香澄

靴の踵（かかと）のことをヒールと呼びますが、その種類は多彩。ヒールによっては舗装路を歩くとリズム感のある音が響きます。その音に合わせるように木の葉が舞っています。

柿たわわショルダーバッグの重きこと　原田　勝子

たわわになっている柿とバッグの重さをコラボした取り合わせの句。重たいバッグの中身にはあえて触れず、読者の想像に委ねました。俳句特有の省略です。でも少し気になるバッグの中身。

俳句の基本　リズム感を確かめる

年間賞の発表

二〇二一年の（一月から十二月までの投句）年間賞は大字野上中央の藤澤泉渓さんに決定しました。泉渓さんは美術を愛する書道家です。豊富な語彙を使って新人らしからぬ句風で読者の注目を集めています。二〇二一年の代表的な作品を紹介します。

初明かり森羅万象身じろがず
紺碧の空に染み入る独活の花
友の描く木の香の絵馬や春浅し
句帖を閉じ三俣の翠嵐持ち帰る

泉渓さんは、合同新聞にも投句されてますが、「泉渓さんの句は完成度が高い」と谷川彰啓氏（選者）の選評もいただいており、「句帖を閉じ」の句は合同新聞読者俳句の優秀作品に選ばれています。

泉渓さんは俳句の基本である「多作多捨」を実行され、毎回たくさんの句を作られ投稿されます。十一月の投句。〈かけ竿の残りしところ畦豆を干す〉入力ミスで訂正後の句ですが、秋の風情を感じる佳い句だなあと改めて思います。受賞おめでとうございました。

佳作　二十二席

通院の日記となりし古暦　重吉
茅葺きの屋根に花咲き鰯雲　八千子
歳時記に残りし付箋年の暮　豊國
こなせないスマホの機能ちゃんちゃんこ　一人
一年を惜しむが知き帰り花　直主
荒き風除けて山茶花染めし頬　一
蔦紅葉受診帰りの車窓より　左世美
大吊橋山より下る秋の色　則子
老いを抱き抗（あらが）うこころ寒椿　ヨウ子
群青の歌に聞き入る冬薔薇　トシ子
雲梯（うんてい）の側なる大樹一葉落つ　文子
律子

集団登校はしゃぐ子ども等息白し　桐友
着ぶくれてディサービスのバスを待つ　良子
赤き実をひとつ残して秋はゆき　安夫
いつの間に帳尻合うて除夜の鐘　純子
着ぶくれて座るも立つも大仕事　好美
片隅に彩り添えて石蕗（つわ）の花　チズ子
青空に赤くやさしく紅葉映ゆ　ムツ子
吾が庭のつつじに咲くや帰り花　文雄
コトコトと窓から臭うおでんの日　ヤスコ
初冬や人影ふたつ喫茶店　次江
窓越しの由布の頂雪化粧　恒己

（選者・評）▽「多作多捨」は俳句の上達法として名高いことばで、沢山作って沢山捨てるという意味です。多く作ることで、自分の俳句の癖がわかるというか、そういうことに気づくということです。ゴミ箱に捨てるという意味ではなく一定期間保存して眠らせておくということでもあります。▽一年間、ご愛読ありがとうございました。来る年もまた皆さんとこの読者俳句で楽しみましょう。御支援ご協力ありがとうございました。（選者　こごりゅうしょう）

お詫びと訂正

十一月号の泉渓さんの句は正しくは「かけ竿の残りしところ畦豆を干す」です。訂正してお詫びいたします。

1月号の締め切りは、12月23日（必着）でお願いいたします。選者（古後粒勝）宅にハガキ等で直接送付いただいても結構です。住所（九重町大字粟野1414番地）

発行・九重町役場企画調整課
〒879-4895　大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
☎ 0973-76-2111
印刷・尾花印刷有限会社

VEGETABLE OIL INK　広報ここのえは、環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。
UD FONT by MORISAWA　広報ここのえは、UD文字を使用しています。